

## シンポジウム「グローバル・イノベーション フォーラム 2014」レポート

イベント名：議員連盟「科学技術の会」「つくばグローバル・イノベーション推進機構」合同主催  
グローバル・イノベーション フォーラム 2014  
日本の科学技術・イノベーションの振興 ～モデルケースとしての「つくば」～

日 時：平成26年 3月4日（火） 13：30～18：00（開場13：00）

会 場：WTC コンファレンスセンター「フォンテーヌ」  
（世界貿易センタービル 38階）

参加者数：シンポジウム参加者数 計174名



内 容：

<開会挨拶>

○大島 章宏(衆議院議員、議員連盟“科学技術の会”共同代表)



議員連盟「科学技術の会」の成り立ちについてご紹介いただきました。今回のフォーラムが討論の場として活用されることや、科学技術のさらなる発展への支援に対する議員連盟としての熱意を述べられました。

○橋本 昌(茨城県知事) ※ビデオメッセージ



科学技術創造立県茨城を目指し、つくば国際戦略総合特区の取組の早期の実用化について、また科学技術に関心を持つような教育の重要性について述べられました。

○市原 健一(つくば市長)



つくば国際戦略総合特区、つくばグローバル・イノベーション推進機構の取組についてご紹介いただきました。また、つくば市の国際都市としての環境整備を進め、産学官連携の進展や日本のグローバル産業競争力を高めていくことを述べられました。

<講演>

○中村 道治（つくばグローバル・イノベーション推進機構 機構長）

「イノベーション拠点としてのつくば」

筑波研究学園都市の成り立ちや、現在のつくばの概況、そして現在特に注力するつくば国際戦略総合特区の取り組みを紹介。イノベーションの創出の実現に向けての意欲が述べられました。



○岸 輝雄（つくばイノベーションアリーナ ナノテクノロジー拠点運営最高会議 議長）

「TIA-nano の取組」

産総研、物材研、筑波大学、高エネ研の4機関が中核となり、産業界が加わって拠点形成を推進している「TIA-nano」の取り組みとともに、その課題、期待についてご紹介いただきました。

○比留川 博久（産業技術総合研究所 知能システム研究部門長）

「生活支援ロボットの实用化」

生活支援ロボットの安全認証の取り組みや意義、また、国内で唯一、公道で走行試験が行える「つくばモビリティロボット実験特区」の取り組みをご紹介いただきました。新規事業立ち上げフェーズにおける支援環境の重要性についても述べられました。



○橋本 和仁（東京大学大学院工学研究科 教授、総合科学技術会議議員）

「日本のイノベーション政策と国立大学改革」

日本におけるイノベーション創出について、特に現在行われている産学官連携の問題を提起しながら、その改革案について提言された。



○リチャード B. ダッシャー博士 (スタンフォード大学工学部 アジア・米国技術経営研究センター所長、スタンフォード大学工学部 積システム研究所 専務理事)



「オープン・イノベーション・システムに於ける最新の動向：  
地域におけるイノベーション拠点の比較に向けて」

オープン・イノベーションについて、シリコンバレーなどを例にあげながら、その地域の特性や条件との関連性や展開について述べられました。  
アジア地域でのオープン・イノベーションの可能性についても述べられました。

○ステファン シベール博士 (フランス 原子力・代替エネルギー庁/  
最先端技術局 CEA Tech 大規模開発プロジェクト部長、フランス イゼール県グルノーブル市副市長)

「グルノーブルにおける GIANT イノベーション・キャンパス：21 世紀欧州エコ都市の経済エンジン」

世界的なナノテク拠点である仏・グルノーブル市の「MINATEC」について、その地理的条件や生活環境など、都市形成をふくめた取り組みをご紹介いただきました。



<パネルディスカッション>

テーマ：「科学技術・イノベーション都市 つくば の未来について」

モデレーター：中村 道治 (つくばグローバル・イノベーション推進機構 機構長)

パネラー：上月良祐 (参議院議員、  
議員連盟“科学技術の会”メンバー)

永田 恭介 (国立大学法人筑波大学長)

潮田 資勝 (物質・材料研究機構 理事長)

中鉢 良治 (産業技術総合研究所 理事長)

住川 雅晴 (株式会社日立製作所 顧問)

長洲 毅志 (薬学博士、ユーザイ株式会社、  
独立行政法人科学技術振興機構 研究総括)

東嶋 和子 (サイエンスジャーナリスト、  
筑波大学社会・国際学群非常勤講師)



「科学技術・イノベーション都市 つくば の未来について」というテーマについて、まず各パネリストからそれぞれの見解が発表されました。そして「大学・研究機関と企業との連携強化」、「生活環境の整備・改善」、「つくばの未来像」の3つの視点から議論を展開。パネリストだけでなく、市原つくば市長やダッシャー教授などの講演者からもコメントが述べられました。つくばを“ワクワクするような街”にしなければならない、

“研究者だけでなくそのご家族の方々にも快適に活発に生活できる街にしなければならない”、というような意見が印象に残りました。

○閉会挨拶

三浦宏一

(議員連盟“科学技術の会”事務局長、一般社団法人世界貿易センター東京 理事長)

